

トルコでの欧州 WONCA に出席して

広報委員会 板東 浩

WONCA の一員である日本プライマリ・ケア (PC) 学会は、国際的に指導的立場を担っており、2005年の京都 WONCA 大会は諸外国から高く評価された。広報担当の筆者は、欧州 WONCA 会議 (ギリシャ, 2005)、南米・イベリア WONCA 会議 (アルゼンチン, 2006)、アフリカ WONCA (ナイジェリア, 2008) に参加し、学会報告や各国における PC の現状などを報告してきた。

2008年9月にトルコのイスタンブールで開催された欧州 WONCA に参加したので、簡単に報告したい。

1. WONCA の開会式

このたびの大会は、トルコのイスタンブールにある Istanbul Convention & Exhibition Center, および隣接する Military Museum, Cultural Center で開催された (図1)。参加者は世界から4500人に上り、大規模な大会となった。トルコは多種の世界遺産を有しており、欧州からも比較的短時間でアクセスが可能であるため、世界から多くの会員が参集したのであろう。

開会式は4日午後7時から始まり、実行委員長である Birgul 氏は、次のように挨拶をした。

「イスタンブールは、地理的にヨーロッパの南東の端に位置しているが、ヨーロッパとアジアとの架け橋となる場所であり、歴史的にも文化や文明が出会い融合してきた土地柄である。このような場所で、WONCA が開催されるのは誠に意義深く、今回のテーマである『距離を超えて (Overcoming the distance)』にふさわしい。さらに、街を少し散歩するだけでも、その美しさに見とれてしまい、本当に距離とはどのようなものなのか、再考する機会にもなるであろう。我々は多面的に family medicine を分析していき、いろいろな意味で距離を縮められるように、相互理解をしていかなければならない。

今回の欧州 WONCA には4500名以上の同志が集まり、感謝申し上げたい。すべてのプログラムを楽しんでいただければ幸いであり、今後に向けて感銘に残るような運営や挑戦を続けていきたい」。



図1 学会会場の Military Museum

その後、実行委員会からの挨拶や WONCA の会長講演が続いた。引き続き、トルコ特有の音楽と踊りが披露され、ウェルカムパーティで親睦を深めた。

2. WONCA 会長の講演

WONCA 会長の Weel 教授は、常に世界中を忙しく回りながら、WONCA の普及や啓発活動を精力的に続けられている。ちょうど半年前にナイジェリアで開催されたアフリカ地域 WONCA でお会いし、歓談した。氏は開会式で意義深いレクチャーを担当され、その中から参考になるポイントを記載する。

会長は最初に、WONCA の歴史に触れた。1972年にメルボルンで誕生し、当初は13の学会と組織であった。当初、特に議論された内容として、生涯教育と研修、サービスの提供、学会の役割などがある。今でも、これらの基本的議論の重要性は不変であろう。

時代が変わり、世界各国や地域により、時期や状況により、メディカルケアのモデルは変遷がみられる。医療制度は地域によって異なり、能力や役割や機能も違っている。ケアは多様であって形態に応じて対応し、定まった模範的診療像を有しないのが、プライマリ・ケアの特徴であると言えよう。氏が WONCA の役割について述べられた内容をまとめ、表1に示す。

表1 WONCA の役割

- A. 推進すべきもの
- 1) ジェネラリストの育成
すべての健康問題
すべての段階で
すべての個人を対象に
必要に応じた対応
 - 2) 地域を指向した内容
家族または家庭単位で
社会的な考慮も
 - 3) 医者個人として
患者指向型で
統合的なケア
継続的なケア
- B. 含むべきもの
- 1) 研究の発展, 教育, 研修の検討課題
PC での健康問題—ケアの継続
健康問題を有する患者—個人を考慮
機能の制度—全体をみる
人口を考慮—社会的な要因
 - 2) PC の養護, 弁護
PC に焦点をあわせた議論
- C. 発展させるべきもの
- 1) 学究的構造とメカニズム
実践に基づいた研究ネットワーク
教育の実践
医学生に PC 医学を
専門科の研修
指導医の育成
 - 2) 既存の PC とのリエゾン
地域で実践している GP
他の PC 関連職種
公衆衛生の専門家



図2 Ungan 氏の大会長講演



図3 ワークショップの風景



図4 Vasco da Gama Movement のワークショップにおいて最初のスライドで魅力ある啓発用のイラスト

3. 大会の概要

メインの基調講演として、① Ungan 氏：距離を超えて～欧州 WONCA ネットワークの貢献～(5 日9AM), ② Lagro-Janssen 女史：婦人の健康を脅かす災害～生物精神社会的アプローチにて～(6 日9AM) を拝聴した。①では、家庭医が不足するトルコで、PC 医学が展開しつつある経緯が紹介され (図2), ②では、天災や sexual harassment, PTSD などの調査研究が述べられた。

今回はマンモス大会となり、基調講演6, 教育講演28 (発表者41), ワークショップ76, 口演発表319, ポスター635に上った。この中では、多種にわたるワークショップが斬新な試みと思われ、いずれも誰もが自由に議論しあう雰囲気であった (図3)。

筆者が数年来、注目しているムーブメントとして、Vasco da Gama Movement (VdGM) 運動がある。ヨ

ーロッパ各地から若い研修医が集まり、欧州の family medicine を良い方向に発展させていくグループだ。相互連絡している WONCA から、常に全面的な協力や援助を受けている。筆者は2005年の欧州 WONCA で VdGM のリーダーたちと議論を深め、本誌でも報告した。今回も魅力的なワークショップで (図4), 活動も順調に進んでおり、今後のさらなる展開が楽しみである。